

石高新聞

R 5 年
12月20日
発行
第72号

23H田屋 U17国際大会で準優勝

～U17女子ユース「第2回ミルナワンカップ」～



↑マレーシア代表選手と日本代表選手の集合写真



↑オーストラリア(黄)と日本(青)の試合

11月19日から11月25日にかけてマレーシアで行われたU17女子ユース「第2回NHDPMilnaワンカップ」に代表選手として選ばれ準優勝を果たした、女子ホッケー部の田屋結菜さん(23H)に話を聞いた。

必ず成長につなげる

U17に選ばれた時の気持ちを聞くと、「嬉しいと思う反面、プレッシャーや緊張が頭をよったが、不安などのマイナスな感情は挑戦の妨げになると考え自身の課題を見つけ必ず成長につなげるということを考えるようにしようと思った」と当時の心境を語った。

瞬時に相手を分析

9月に行われた韓国遠征との違いについて、「韓国遠征の時は韓国のチームだけとの試合だったので戦術などを考えるのが簡単だった。しかし、今回の遠征は多くのチームと戦うので、事前データを基にするだけでなくコート内で瞬時に相手を分析し、状況にあった戦術をその場で考えねばならず大変だった」と振り返った。

0からの気持ちで

今回の遠征を通して田屋さんは、「目の前の相手に余裕を持たせないくらいはやく当たることや積極的にパスカットを狙うなど新しく得たものが多くあった。これからは今一度自分のプレーや言動を見直し、0からという気持ちでホッケーに向き合いたい」と意気込みを語った。